経営比較分析表（令和5年度決算）

千葉県　成田市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	**自己資本構成比率(%)**	**普及率(%)**	**1か月20m³当たり家庭料金(円)**	
-	57.01	58.89	2,739	

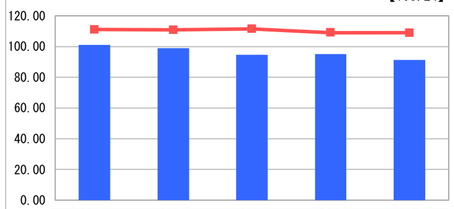
人口（人）	面積(km²)	人口密度(人/km²)
132,023	213.84	617.39
現在給水人口(人)	**給水区域面積(km²)**	**給水人口密度(人/km²)**
78,002	26.06	2,993.17

グラフ凡例
- ■　当該団体値（当該値）
- ー　類似団体平均値（平均値）
- 【】　令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性

①経常収支比率(%)

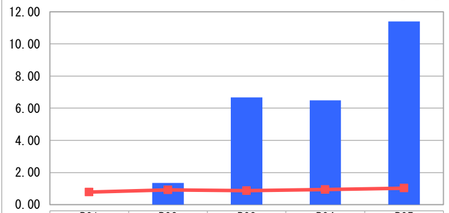
【108.24】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	101.11	99.00	94.74	95.06	91.20
平均値	111.17	110.91	111.49	109.09	109.05

②累積欠損金比率(%)

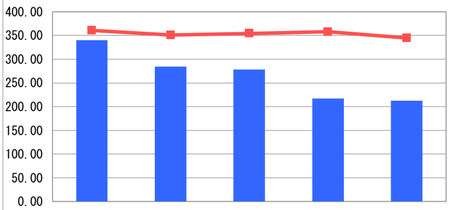
【1.50】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	0.00	1.36	6.68	6.49	11.40
平均値	0.78	0.92	0.87	0.93	1.02

③流動比率(%)

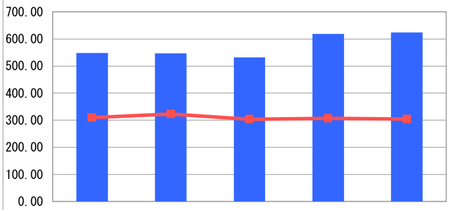
【243.36】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	339.94	284.49	278.21	217.17	212.85
平均値	360.86	350.79	354.57	357.74	344.88

④企業債残高対給水収益比率(%)

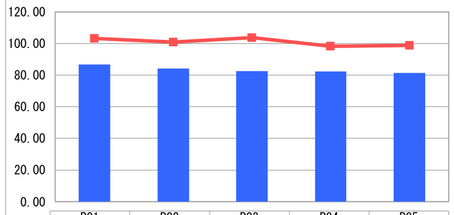
【265.93】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	547.99	546.62	532.02	618.43	624.11
平均値	309.28	322.92	303.46	307.28	304.02

⑤料金回収率(%)

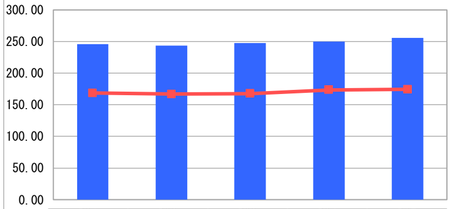
【97.82】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	86.76	84.28	82.56	82.40	81.34
平均値	103.32	100.85	103.79	98.30	98.89

⑥給水原価(円)

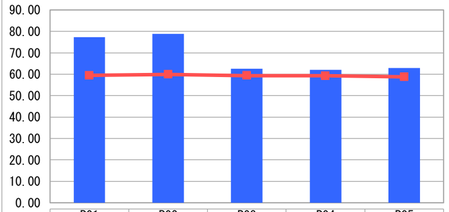
【177.56】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	246.18	243.52	247.53	250.04	256.07
平均値	168.56	167.10	167.86	173.68	174.52

⑦施設利用率(%)

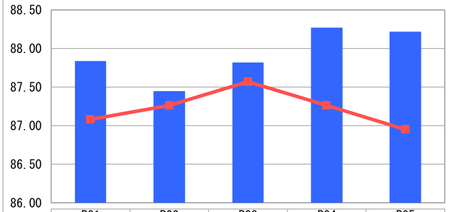
【59.81】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	77.24	78.83	62.63	62.13	62.85
平均値	59.51	59.91	59.40	59.24	58.77

⑧有収率(%)

【89.42】

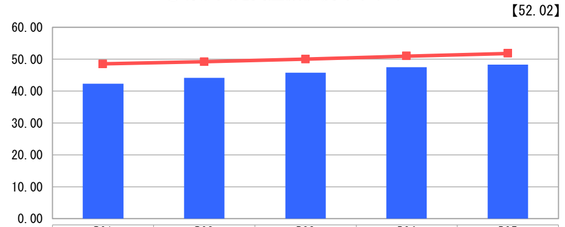


	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	87.84	87.45	87.82	88.27	88.22
平均値	87.08	87.26	87.57	87.26	86.95

2. 老朽化の状況

①有形固定資産減価償却率(%)

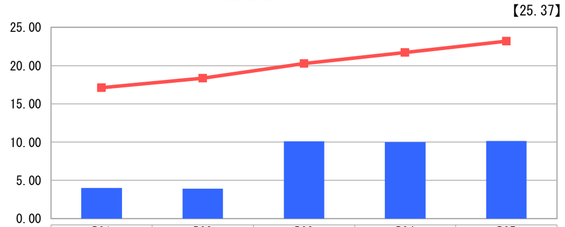
【52.02】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	42.33	44.21	45.75	47.47	48.31
平均値	48.55	49.20	50.01	50.99	51.79

②管路経年化率(%)

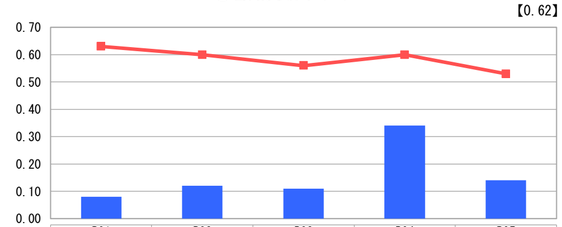
【25.37】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	4.00	3.90	10.09	10.03	10.16
平均値	17.11	18.33	20.27	21.69	23.19

③管路更新率(%)

【0.62】



	R01	R02	R03	R04	R05
当該値	0.08	0.12	0.11	0.34	0.14
平均値	0.63	0.60	0.56	0.60	0.53

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①「経常収支比率」・⑤「料金回収率」の低下、②「累積欠損金比率」・⑥「給水原価」の上昇は、受水費や委託料、減価償却費、支払利息などの経常費用が増加傾向であるためである。これらの費用は今後も増加する見込みであるため、令和7年度から料金改定を実施する。

③流動比率・④企業債残高対給水収益比率
流動比率は200%を超えており、短期債務の支払能力を十分に有していると言える。しかしながら、企業債残高対給水収益比率は600%を超えており、これは1年間の給水収益の収入額に対して、6倍超の企業債残高となっていることを意味する。引き続き、改修工事等を実施していくための財源として、企業債を借り入れざるを得ないため、資本的収支と損益勘定留保資金とのバランスを見ながら、計画的に企業債の借り入れを行っていく必要がある。

⑦施設利用率
全国平均及び類似団体平均を上回っており、保有している施設を有効に利用していると言える。

⑧有収率
類似団体平均を上回っているものの、全国平均を下回っている。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率
全国平均及び類似団体平均を下回っている。これは、施設や管路等の更新を計画的に行っているためである。

②管路経年化率
令和3年度に法定耐用年数を経過した管が増加したことから、管路経年化率が上昇しているが、過去に集中して更新を行ったことから、基幹管路を中心に管路経年化率は低い水準である。

③管路更新率
管路経年化率が低い水準であることから、管路更新化率も低い水準で推移しているが、既設管の老朽化は進んでいくため、今後も引き続き計画的に管路の更新を行っていく必要がある。

全体総括

給水人口は増加傾向であり給水収益も増加しているが、施設・管路の老朽化や耐震化対策、用水供給事業からの受水量の増、物価高騰の影響により経常費用が増加傾向であり、経常収支比率と料金回収率が100%を下回る状況が続いている。

施設や管路の老朽化は全国平均や類似団体と比較すると進んでいない状況であるが、これから耐用年数を経過する資産が増えていくことから、引き続き計画的な更新を行っていく必要がある。

今後についても、給水収益の大幅な増加は見込めない一方で、これまでと同様に経常費用は増加していく見込みであることから、早急に経営基盤の強化を図るため、令和7年4月1日から料金改定を実施することとした。